

□各高校への聞き取り内容

	市立船橋高等学校	船橋学園東葉高等学校
時期	10月中旬～11月中旬	
場所	体育館	大教室（80人収容）
対象	2学年全員（約400人）	全学年希望者（20人～50人）
講師（議員）	上限10人	上限4人

□高校への出前講座に関する3月25日の広報委員会での各会派の主な意見（要約）

会派	意見
市民民主連合	<ul style="list-style-type: none"> ・求められているなら、やる方向がよい。 ・出前講座なので人によって話す内容が違ってはいけない。統一したものを伝えるのが大事。ただ、高校側の求める内容に対して個人的な意見となる可能性もあるが、広報委員として話せることの詳細を決めるべき。詳細を詰めていくのに間に合うか。
公明党	<ul style="list-style-type: none"> ・実施してくべき。 ・アンケートでは、市議会のことを知らないという意見もあり、青年の政治参画について取り組んでいく必要がある。 ・我々ができることと、学校側にお願いすることなどを分けていく必要がある。 ・議会見学会のグループトークなどは継続できる1つの形ではないか。 ・使う資料（模擬議会をするなら台本）を決めてそれを読み、流れを教えるような形にすべき。自分の色が出ないようにある程度流れを作った上で実施し、毎年ブラッシュアップするとよい。 ・議会見学会を向こうに持っていくイメージだと思う。
自由市政会	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの状況にもよるが、要望に沿えるならやってもよい。 ・高校側が求めるテーマに対して、広報委員として喋れること、個人としての発言になることの線引きが皆さんの悩みだと思う。フリートークで精査する時間があってもよいのでは。
飛翔	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が議会の何を知りたいかを明らかにした上で、準備をしっかりと臨む必要はあるが、まずはやる方向で動き出すべき。 ・広聴として、議会に対するイメージや選挙への関心、市政に対することなどを聞く機会もつくってほしい。 ・任期中にやるのか改選後にやるかは決めずに、実務者と相談をスタートすべき。

創風ふなばし	<ul style="list-style-type: none">・学校側の意見、要望、テーマ等を見ると非常に重く感じる。ただ単に出前講座の講師として中途半端な経験と知識の中で行ってもいいものか、議論すべき。・将来的にやることは否定しないが、来年4月には改選があるため、今期は時期的にすべきではない。・時間がないのではないか。準備して行ってやっぱり無理だとなるのはいかなものか。今年度は、来年度に向けたシミュレーションを行い、改選後に引き継ぐようにすべき。・来年は我々の選挙があるので、政治的な質問に対しては、本当によくよく準備しておかないと難しい。・議会見学会の形をやるのであれば、高校生向けのものを作って議論して持っていくべき。
日本共産党	<ul style="list-style-type: none">・やる方向でよい。・中身については、党派の色が出ないもので、向こう側が求めている形を話し合って決めていけばよい。
新楓	<ul style="list-style-type: none">・本当にできるかどうかを議論しなければ、実施には向かない。・議員活動と子供たちに教えることは違うので、しっかりシミュレーションして台本を作ってやるべき。質問ではどうしても政治がかった話もでてきてしまうので、そこに制限をかけながらシミュレーションしていかないと難しい。議会見学会では台本を作って議員の色が出ないようにしているので、そのくらいまで構築できて出前講座ができると思う。・議会見学会の内容を使うのはいいと思うが、であれば議会見学会を市立船橋高校向けにやればよいという話になる。高校に出前する何かがあつての出前講座なので、そこをしっかりと議論すべき。議会見学会を秋に1日高校生向けに実施したほうが議場も見られるし、よほど有意義ではないか。